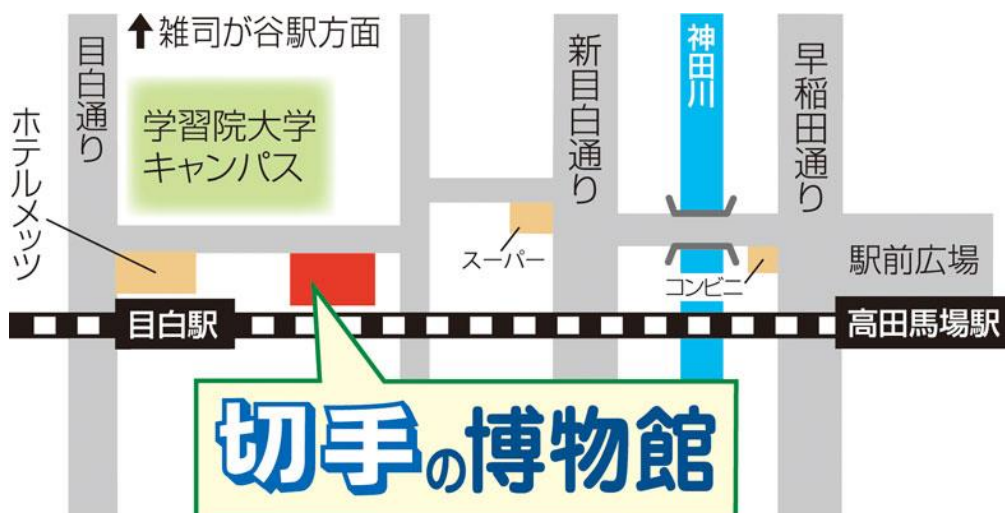


郵趣スタートガイド

～ 初めて郵趣を楽しむ方に ～

図柄やデザインが美しく可愛い切手は見るだけで楽しい
切手って知識や情報など、そして美の宝庫でもあるんだ
切手で世界の歴史、文化、文明、生活、自然などが分かるね
切手や消印などで楽しむ趣味が「郵趣」なんだってね
「郵趣」は環境に優しい究極の資源再利用の趣味だよ
世界を知るのは切手趣味の「郵趣」がもっとも早道と思う
「郵趣」で世界中に親しいペンフレンドができるよ
切手は世界をつなぐ友好、親善の架け橋になるんだね
「郵趣」の世界は本当に幅も広いし奥が深くて楽しいね



公益財団法人 日本郵趣協会

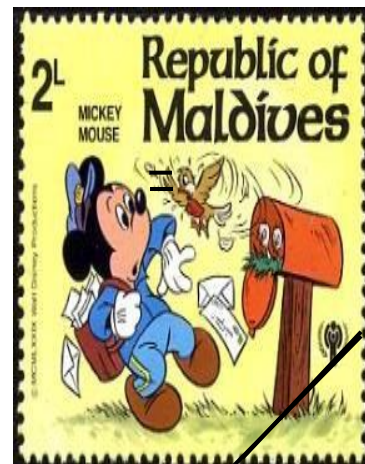
郵趣の楽しみ方

**郵便に関係ある物や情報を集め、
楽しむのが郵便の趣味、郵趣です**

切手を見て可愛いな～、きれいだな～、この花の名前は何だったかな～、この絵すてき～などと思ったことはありませんか？このように郵趣の始まりは、自分が切手を見て楽しく思うことです。切手などの郵趣品から得られる情報は非常に多いので、楽しみの糸口を自分流にどこからでも見つけることができます。

切手を見ること、集めること、そして分類することでいろいろ楽しいことが見つかります。

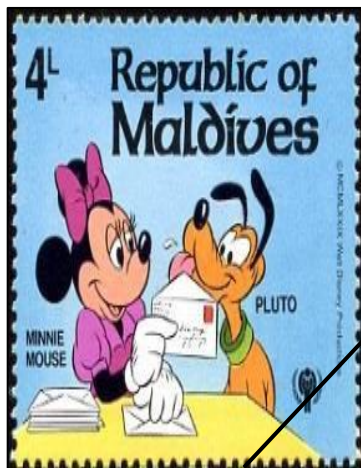
例えば、切手に画かれた図柄や文字には、歴史、文化、風景、自然、人物、生活など、多くのことを学べる糸口を見つめることができるのではないのでしょうか？



切手展に出品されている作品を見ると、主題(タイトル)に沿って、切手などが示す歴史やその背景を知ることができます。また、関係する郵趣品の種類の多様さも一目で分かります。

切手は、図柄の美しさや芸術性の高さから美術品の宝庫であるとか、発行目的などから知的資産の宝庫であるとか言われています。使用済みの封筒や、はがきの消印から歴史的価値が発見されたりもします。一方で、捨てられる運命にある郵便物を再利用して楽

しめることから、環境に優しい究極の趣味とも言われています。展示作品を自分の目線で鑑賞することにより新たな自分流の楽しみ方を見つめることができるのではないのでしょうか。



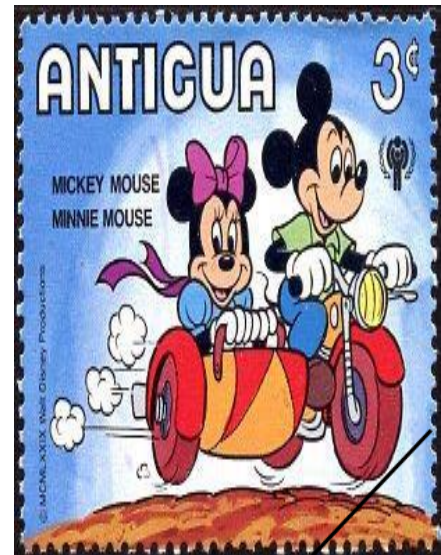
郵趣は仲間とのコミュニケーションが大切です。日本郵趣協会に入会して、地元の切手クラブに参加することで多くの郵趣仲間と交流し、郵趣の楽しさを深め、広げることができるでしょう。

1. 郵趣品の収集

切手や風景印など 自分の好きな郵趣品を集めましょう

郵趣品とは、郵便局が取り扱っている郵便物に関する素材(マテリアル)です。未使用の切手、消印のある使用済みの切手、消印が押された使用済みの封筒、未使用、あるいは郵便印の押されている使用済みのはがき、その他に郵便物に貼付されている郵便関連の証票などが相当します。

いろいろな種類の郵趣品を集めることから始めてみましょう。郵趣品の収集を続け、切手や郵便物などの郵趣情報を仲間と交換しているうちに、自分好みの切手の図柄や収集の目的が見えてくると思います。

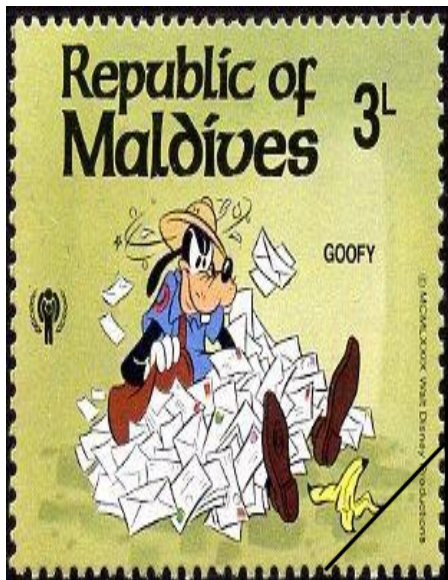


郵趣品を集める方法を以下に簡単な順に掲載しましたので、参考にしてください。

1. 自宅や親戚あるいは勤め先に届けられた郵便物から収集。
2. 友達や郵趣家の先輩から不要な切手をもらったり、切手を交換。
3. 日本郵趣協会の研究会で提供される切手を購入。
4. 郵便局で販売している切手を直接選んで購入。
5. 切手の博物館のミュージアムショップで好みの切手を購入。
6. 切手商やフリーマーケットで望みの郵趣品を購入。
7. 郵趣品の販売カタログを利用して望みの切手を購入。
8. スタマガネットや日本郵便のインターネット・オンラインショップを利用。
9. 国内外の切手オークションで、購入希望の郵趣品を探す。

2. 郵趣品の整理

郵趣品を自分流に簡潔に整理しましょう



買ったり、いただいたりした切手やはがきなどの郵趣品を、袋に入れたままにしておいては、どこに何があるのか分からなくて困りますね。最初は日本切手カタログを見ながら、日本の切手を発行年順に並べてみましょう。

外国の切手が手元にあるなら、国別にまとめてもいいでしょう。

切手の図柄が、例えば花や絵画などのように、同じ種類であるとか、あるいはスポーツや音楽のように発

行目的の切手を収集する場合は、「トピカル収集」と呼んでいます。

またある物語を想定した主題(テーマ)により郵趣品を収集する場合は、「テーマティック収集」と呼ぶこともあります。いずれにしろ自分に分かりやすい分類名で整理していくことは、郵趣品を収集し、作品を作る上で大変役立つし、重要なことです。

郵趣品を分類し保存するためには、収納する用品が必要となります。小型の空き箱を利用するのも良いですが、最近はサイズ規格のプラスチックケースが安く手に入ります。はがきや小型シートを整理するにはプラスチックファイルも役立ちます。切手一枚一枚を見やすく分類するためには、昔から広く使用されているストックブックが便利です。さらに収集切手が多くなれば、切手を収納した複数のストックリーフをバインダーに分類して整理することができます。

なお、切手を汚さなく大切に扱うため、切手用ピンセットを使いましょう。切手収集のためには切手カタログが大変役立ちます。(株)郵趣サービス社から毎年春に「さくら日本切手カタログ」が発行されていて、日本切手の分類に重宝します。また、切手の博物館では、テーマに沿って展示された切手を見ることができ、非常に参考になります。

3. マイリーフの作成

自分流の郵趣作品をつくりましょう

自分好みの郵趣品が集まり、整理することができたら郵趣仲間に見せて、感想や助言を聞きたいですね。そういうときには、ストックブックから切手を取り出し、少し厚めの台紙にバランス良く並べて貼り付けましょう。このような台紙をリーフといい、大きさはレターサイズか、A4判が通常使われています。最近では、A4判を2つ繋いだ大きさのダブルリーフと呼ぶサイズのリーフ等も使われるようになりました。リーフには切手だけでなく、はがきや封筒などの郵趣品も使います。郵趣作品の制作とは、こうした郵趣品を貼って、説明文を加えた展示用のリーフを作っていくことです。

作品を制作するには、全体の流れを説明できる主題(タイトル)を最初に決めなければなりません。その主題に沿って、郵趣品を自分流に各リーフに美しくデザインし、リーフ全体を配列していきます。作品を展示するときのリーフ枚数は、一律ではありません。日本郵趣協会が主催する展覧会で使用しているフレームは1フレーム16枚のリーフが基本となっています。

審査を受ける競争作品には、伝統、郵便史、テーマティック、航空郵趣、トピカルなどのクラスがあります。それぞれに規則がありますので、リーフ作成のために使用する郵趣品やリーフ構成にも習熟することが必要です。

使用済み切手を貼付するために、かつてはヒンジが使われましたが、今では貼ってはがせる両面テープ(弱)を使用する人が多くなりました。未使用切手は専用の透明フィルムポケット(マウント)で保護して貼付します。はがきや封書はコーナーや両面テープ等で固定します。

なお、リーフ作品は切手の脱落や汚損を防止するため保護ラップに入れます。



4. 展示を楽しむ

自分の収集した郵趣品を見てほしいです

郵趣作品が増えてくると、多くの方に見てほしいし、作品に関するお話も聞いていただきたいですね。そのためには、展示する方法や場所を決めることで悩むでしょう。

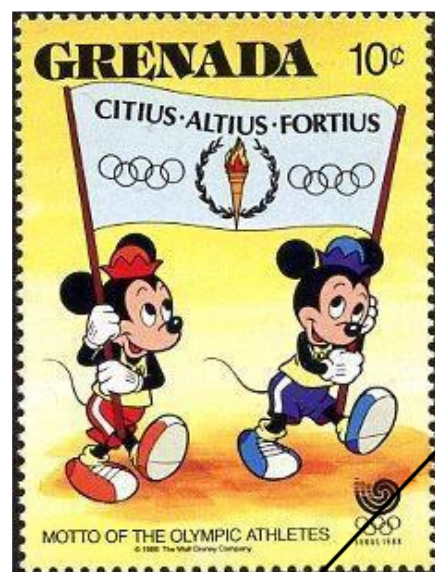
自作の郵趣作品を展示してもらうには、日本郵趣協会が推奨、支援、あるいは主催している切手展に出品するのが、比較的簡単で便利な方法です。これらについて説明しましょう。

毎年4月の「切手趣味週間」で日本郵趣協会は「全国ミニ切手展」の開催を呼びかけています。開催場所や期間は、地元の郵便局、公民館や児童館等で個別に相談して決めます。このミニ切手展は、個人あるいは仲間の自由な感性により実施することができます。その際は、日本郵趣協会が販売している展示用ビニールパネルが安く便利に利用できます。

また、日本郵趣協会の研究会や登録支部に加入すれば、それぞれの切手展に作品を展示することができます。

郵趣作品を専門の審査員に評価してほしいと思うこともありますね。このような作品は、競争展に出品することをおすすめします。

日本郵趣協会では、春のSTAMP-SHOWで、トピカル切手展やフリースタイル切手展を、また秋のJAPEX(全国切手展)では、伝統郵趣、郵便史、航空郵趣、ステーションナリー、テーマティック、そしてオープンなどの出品クラスがあり、広く出品作品を募集しています。



切手のひとくち話

郵便切手(通称、切手)を郵便物に貼り、郵便料金を前納する仕組みの郵便制度がイギリスで生まれました。初めての切手が1840年に発行されました(右図)。図柄はビクトリア女王の肖像です。黒色の1ペニーなので、ペニーブラックの愛称で呼ばれています。同時に発行された青色の2ペンス(愛称ペンスブルー)と共に世界の一番切手として有名です。



日本で初めての切手は、明治4年(1871)に発行された手彫り切手「竜文切手(りゅうもんきって)」です(左図)。図柄には対の竜が描かれています。背景の色が茶色なのが48文で、青色が100文、朱色が200文、そして黄緑色の500文の4種があります。いずれも目打ちがありません。

日本で最初の記念切手が発行されたのは明治27年(1894)で、明治天皇のご結婚25周年を記念する「大婚二十五年祝典」切手です(下図)。



現在までに世界で発行された切手の発行種数に関する正確な統計はないのですが、70万種以上ではないかと言われています。一方、日本では8,700種以上が発行されています。

郵趣をもっと楽しみ、情報を豊かにするために 日本郵趣協会に入会し、郵趣友達をつくろう

1946年に設立した日本郵趣協会は、2011年、公益財団法人になりました。世界の切手知識や郵趣に関する最新情報が満載の月刊誌「郵趣」が会員のご自宅に毎月届けられます。郵趣を始める最も簡単な道は、日本郵趣協会の切手ワークショップ(入門コース、作品コース)を受講することです。1年間の開催日程(予定)はおおむね、以下の通りです。どなたでも無料で受講することができます。

◆「切手ワークショップ(入門コース・作品コース)」

(年間全6回、原則として土曜日の午後開催、予定)

〈対象：郵趣に関心のある方や郵趣初心者〉

- ①6月度 「切手など郵趣品の
集め方と整理の仕方」
 - ②9月度 「マイリーフ作成ガイド」
 - ③11月度 「マイリーフ作成実習①」
 - ④1月度 「マイリーフ作成実習②」
 - ⑤2月度 「アルバムリーフ作成」
 - ⑥4月度 「アルバムリーフ展示と展示作品鑑賞」
- 会場：①～⑤東京・目白 切手の博物館3階 会議室
⑥東京・浅草 都立産業貿易センター・台東館
(世界切手まつりSTAMP-SHOW会場内)



郵趣友達を見つけると切手収集がさらに楽しくなります。日本郵趣協会には各種24の郵趣研究会があり、その定例会が「切手の博物館」3階でほぼ毎月開催されています。また、全国には約100の登録団体があり、郵趣仲間の交流や郵趣情報の交換などを行っています。

ホームページ：<http://yushu.or.jp/>

Eメール：info@yushu.or.jp

電話(代表)：03-5951-3311 FAX:03-5951-3315

住所：〒171-0031 東京都豊島区目白1-4-23 (公財)日本郵趣協会事務局
(事務局は、切手の博物館の4階)

製作：公益財団法人 日本郵趣協会 普及委員会